

附属学校

中央大学高等学校

■新カリキュラムを導入

中央大学高等学校は、都心に位置していながら、9時20分始業という昼間定時制の特色を最大限に活かす学校作りに今年も取り組んでいます。

その中で最も大きな改革は、2012年度からの新カリキュラム導入に伴い、土曜日を特別な日と位置付けて各種講座を設置、附属校としての使命を果たすとともに、多様な進路保証に対応できる体制をさらに整えたことです。

具体的には、国語・数学・英語の研究講座(より興味を抱かせるための教養的講義)と実践講座(実力養成のための問題演習)、コミュニケーション能力の涵養と広く社会に関心を抱かせるための教養講座(手話・フラワーセラピーなど)です。

その他の授業についてはこれまでの方針通り、2年生までは文理分けをせず全科目を満遍なく履修するカリキュラムを

月曜から金曜までの30時間の中に収める工夫をし、中央大学の基幹学生の輩出とともに国公立大学への進学も後押しできる体制を取っています。

■高校アリーナが完成

念願の高校アリーナが2011年秋に完成し、体育の授業に余裕ができるとともに、部活動もさらに活発になっています。専用グラウンドがないというハンデはありますが、それを補うために、教師と生徒との距離が近く、手をかける教育に磨きをかけ、生徒一人ひとりの顔が見える学校であるよう心がけています。

4月には、アリーナでの初入学式が行われ、162名の新入生を迎えました。2012年3月卒業生から寄贈された真新しい校章も正面に設置され、質実剛健・家族的情味の校風とともに、新入生へとしっかり受け継がれています。



(上)後楽園キャンパス2号館内に新設の高校アリーナ (下)アリーナで入学式を挙行



中央大学杉並高等学校

■人工芝グラウンド完成

2012年、本校は創立50周年を迎えました。この節目に、グラウンドを全面、人工芝に張り替えました(右写真)。

■学校ブランディング実施

学校としてさらに成長していけるよう、「中杉らしさ」を抽出するための学校ブランディング事業を行いました。

学校ブランディングとは、在校生や保護者、教職員などから、アンケートおよびインタビューを通して「中杉」に対する想いとイメージを寄せていただき、それをまとめることで本校の「らしさ」を形にする作業です。学校ブランディングの成果は、「共育と共創」というブランド・スローガンとして、「50周年宣言」の中に結実しています。同時に、アンケート結果に基づいて学校のスクールカラーを緑(中杉グリーン)とし、中央の「C」と杉並の「S」を象った

新たな襟章を制定しました。このマークは、2013年度からの新制服などにも使用され、今後10年、20年と使っていける普遍的なフォルムであると考えています。

■「共育と共創」で次の50年へ

本校はこれまで、東京都内だけでなく、関東全域、遠くは海外から生徒を集め、15歳から始まる一歩を共に歩んできました。ここで出会った仲間たちが一生の財産であると、本校を旅立っていった卒業生たちは口を揃えて言ってくれます。豊かな教養を身につけ、社会に貢献できる力の礎を築くための大切な3年間は「共に育み、共に創る」ことで形づくられているのです。

中央大学杉並高等学校は、これから50年、100年と続いていきます。この50周年はゴールではなく、未来へとつながっているのです。



(上)人工芝グラウンド (下)新制服



中央大学附属中学校・高等学校

(上)人工芝グラウンドと陸上トラック
(下)新第2体育館



■ 完成年度を迎えて(中学校)

2010年4月、中央大学附属高校の隣接地に開校し、3年目の完成年度を迎えた附属中学校は、3学年総数531名の生徒が揃い、中・高・大一貫教育の充実に向けて日々努力を重ねています。

■ 知的探求心を育てる取り組み(中学校)

3年生を対象に、大学理工学部の協力のもと、実験室を使用し、中学理科の範囲にとらわれずに実験授業を体験するプロジェクト・イン・サイエンスを実施します。また、法科大学院の協力を得て、模擬法廷教室において裁判員裁判の体験学習も行っています。生徒が裁判員裁判さらには司法のしくみやその重要性を理解する貴重な機会になるものと期待しています。

■ 募集定員の変更(高等学校)

中学校新設に伴い、2010年度より募集定員が500名から350名に変更されました。2013年度には附属中学校からの内部推薦生徒の受け入れが始まり、募集定員がさらに減り、200名に変更されます。内部進学者と高等学校からの新入生の融和に留意した新カリキュラムを用意し、その実施に向けて着々と準備を進めています。

■ 施設の充実(高等学校)

2011年10月に新第2体育館・プール・校友会部室総合施設が竣工、2012年3月にはグラウンドの人工芝敷設工事が完了し、教育環境がさらに充実しました。第2体育館はバレーボールコート3面をとることができます。また、人工芝グラウンドに沿って全天候ウレタン塗装の80メートル陸上トラックも完成しました。

中央大学横浜山手中学校・高等学校

(上)オーストラリア研修
(下)中学校の男女共学化がスタート



■ オーストラリア研修

2012年3月17日から21日まで、オーストラリアのメルボルンにある姉妹校マリアンカレッジで、中学校、高等学校合わせて25名の生徒と引率教員2名が海外研修を行いました。

マリアンカレッジでは、パンケーキ作りやクロスカルチャーなど現地ならではの授業を受けるとともに、校外学習では現地のお年寄りが入居する施設を訪問、コミュニケーションをとるなかで国際交流を体験するなど、生徒たちは有意義な時間を過ごしました。

■ 共学化スタートとなる入学式を挙行

2012年度より、中学校の男女共学化を実施しました(高等学校は2014年度より実施)。その新たなスタートを祝うかのように晴れ渡った4月7日、満開の桜のなか、2012年度入学式を挙行

しました。来賓として福原総長・学長をはじめ、遠山常任理事、河合商学部長が列席し、関東でも有数の倍率の入学試験を勝ち抜いた中学201名(男子113名、女子88名)、高校101名(女子のみ)の新入生が、初々しい制服姿で出席しました。約900人を収容できる体育館は、新入生とその保護者だけで満員となりました。

男子生徒の入学によって中学1年生は6クラス編成となり、生徒数が最も多い学年となりました。部活動では、サッカー希望者がフットサル部、野球希望者はソフトボール部など、既存のクラブの先輩女子生徒と一緒に練習する微笑ましい光景が見られます。

2013年4月に予定している新校舎への移転の際には、男子生徒の数もさらに増え、様々な活動がより一層活発になると予想されます。